

学校いじめ防止基本方針

三好市立櫛生小学校

1 いじめの防止等に関する基本的な考え方

- (1) 教育活動全体を通じ、全ての児童に「いじめは決して許されない」ことへの理解を促し、児童の豊かな情操や道徳心、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重し合える態度など、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。
- (2) いじめはどの子供にも起こりうる、どの子供も被害者にも加害者にもなりうるという事実を踏まえ、児童の尊厳が守られ、児童をいじめに向かわせないための未然防止に、全ての教職員が取り組む。
- (3) ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階から複数の教職員で的確に関わり、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知する。
- (4) 発見・通報を受けた場合には、特定の教職員で抱え込まず、速やかに組織的に対応し、被害児童を守り通すとともに、教育的配慮の下、毅然とした態度で加害児童を指導する。
- (5) より多くの大人が子供の悩みや相談を受け止めることができるようにするため、学校と家庭、地域が組織的に連携・協働する体制を構築する。
- (6) いじめる児童に対して必要な教育上の指導を行っているにもかかわらず、その指導により十分な効果を上げることが困難な場合などには、関係機関（警察、児童相談所等）との適切な連携を図るとともに、平素から、学校と関係機関の担当者との情報共有体制を構築する。

2 いじめの防止等の対策のための組織

- (1) 組織の構成
管理職、生徒指導担当、学級担任、養護教諭、PTA会長、学校運営協議会委員により構成する。
また、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者等の助言を得る。
- (2) 組織の役割
 - ① 学校基本方針に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正を行う。
 - ② 児童・保護者や教職員からのいじめの相談・通報の窓口となり、報告を受ける。
 - ③ いじめの疑いに係る情報や児童の問題行動などに係る情報の収集と記録、共有を行う。
 - ④ 緊急会議を開いて、いじめの情報の迅速な共有、関係のある児童への事実関係の聴取、指導や支援の体制・対応方針の決定と保護者の連携を行う。

3 教育相談体制

- (1) 教員と児童及び保護者、さらには児童間の好ましい人間関係の醸成に努める。
- (2) 児童の個人情報に配慮するとともに、教員に相談すれば、秘密の厳守はもとより、教員は必ず自分を助けてくれるという安心感や信頼感の醸成に努める。
- (3) 定期的な教育相談週間や相談日等を設定するなど、児童はもとより、保護者も気軽に相談できる体制を整備し、保護者からの相談を直接受け止められるようにする。
- (4) 相談の内容によっては指導を継続し、必要に応じて医療機関等の専門機関との連携を図る。
- (5) 児童や保護者に対して、広く教育相談が利用されるよう、学校の内外を問わず多様な相談窓口について広報・周知に努める。

4 いじめの未然防止のための取組

- (1) 教育・指導場面
 - ① 「いじめは人間として絶対に許されない」との強い認識を、学校教育全体を通じて、児童一人一人に徹底する。
 - ② 教育活動全体を通じた道徳教育や人権教育の充実、読書活動・体験活動などの推進により、児童の社会性を育むとともに、幅広い社会体験・生活体験の機会を設け、他人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操を培い、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重する態度を養う。

- ③ 全ての児童が心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に参加・活躍できる授業づくりや集団づくりを行う。
 - ④ 授業についていけない焦りや劣等感などが過度なストレスとならないよう、一人一人を大切にしたり分かりやすい授業づくりを進める。
 - ⑤ ストレスを感じた場合、それを他人にぶつけるのではなく、運動や読書などで発散したり、誰かに相談したりするなどストレスに適切に対処できる力を育む。
 - ⑥ 学校の教育活動全体を通じ、児童が活躍でき、他者の役に立っていると感ずることのできる機会を全ての児童に提供し、児童の自己有用感が高められるよう努める。また自己肯定感を高められるよう、困難な状況を乗り越えるような体験の機会などを積極的に設ける。
 - ⑦ 学級活動や道徳の時間に、いじめに関わる問題を取り上げ、いじめは人権侵害であり、絶対に許されない行為であることを毅然と指導する。
 - ⑧ インターネット上に他人を誹謗・中傷する情報を発信することは「いじめ」であり、決して許される行為ではないことを児童に徹底するとともに、インターネットを通じて送信される情報の特性に関する学習や情報モラル教育について学校全体で取り組む。
 - ⑨ 児童会活動などにおいて、児童自身の主体的な参画によるいじめ問題への取組が促進されるよう適切な指導や助言を行う。
 - ⑩ 児童の言葉や態度及び遊び等に注意を払い、不適切な場合は指導する。
 - ⑪ 教職員の言動が、児童を傷付けたり、他の児童によるいじめを助長したりすることがないように、細心の注意を払う。
 - ⑫ いじめが解決したと見られる場合でも、継続して十分な注意を払い、折に触れて必要な指導を行う。
- (2) 家庭・地域社会との連携
- ① 学校いじめ防止基本方針や指導計画を公表し、保護者や地域住民の理解を得るよう努める。
 - ② 家庭や地域社会と連携して、いじめ問題の解決を進める姿勢を示すとともに、必要に応じて警察・児童相談所との円滑な連携や情報の共有を図る。
 - ③ P T Aや地域の関係団体とともに、いじめ問題について協議する機会を設け、いじめの根絶に向けて、地域ぐるみの対策を推進する。

5 早期発見・早期対応の在り方

- (1) 各学期の始業式及び入学式等において、すべての児童や保護者に対して、いじめを許さない学校の取組や、いじめられている児童を全力で守りぬくことを明らかにし、児童や保護者が学校を信頼し、安心していじめ等の相談をできるよう働きかける。
- (2) 「いじめ発見のための観察ポイント（教員用）」等を使用しつつ、日常的にいじめの発見に努め、児童が発する危険信号を見逃さず、その一つ一つに的確に対応する。
- (3) 全児童を対象としたいじめ発見のための「アンケート調査」を定期的（6月、12月、2月）に実施することに加え、「個別面談」、「日記や連絡帳」の記述等から、児童の悩みや対人関係での状況をきめ細かく把握し、いじめの認知については、「いじめの防止等の対策のための組織」において組織的に判断する。
- (4) いじめの把握にあたっては、教育相談担当教諭、養護教諭、スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等、学校内外の専門家との連携に努める。特に、けが等にも留意し、背景にいじめがないか確認する。
- (5) 児童に絶えず声かけを行い、児童が日常使っている言葉や態度、遊び等に注意を払うとともに、気付いたことについて教職員の情報交換を密に行う。
- (6) 児童が欠席や遅刻をしたり、けがをしていたりした場合は、必ずその理由を確認し、保護者と連絡を取る。
- (7) いじめについて訴えや情報があった時は、問題を軽視することなく、保護者や友人関係等からの情報収集を通じて事実関係を正確に調査し、いじめを認知した場合は、速やかに市町村教育委員会に報告し、適切な連携を図る。
- (8) 保護者に対して、「いじめ発見のための観察ポイント（保護者用）」を配布するなど、いじめ問題への関心をもってもらい、保護者からの情報提供を促す。

6 いじめへの対処

- (1) いじめの発見・通報を受けたときの対応
 - ① いじめの訴えや情報及び兆候等があった時は、管理職の指示のもと、問題を軽視することなく、正確かつ迅速に事実関係の把握を行う。

- ② 「いじめの防止等の対策のための組織」において、速やかに関係児童等から事情を聴取するなど必要な調査を実施するとともに、認知したいじめへの対応方針を決定する。
- ③ 職員会議等を通じて、いじめの情報を共有し、対応方針について全教職員の共通理解を図る。
- ④ いじめられた児童、いじめた児童への具体的な支援や指導について、教職員一人一人の役割分担を明確化し、組織的に対応するとともに、保護者に対して適切に情報提供を行い、連携・協力を図る。
- (2) いじめられた児童、保護者への支援
 - ① いじめられた児童を徹底して全力で守りぬく。
 - ② いじめられた児童が安心して教育を受けられるようにするために必要な措置を講ずる。
 - ③ 複数教員による家庭訪問を行う。
 - ④ 本人や保護者に必要な情報を適切に提供する。
 - ⑤ 本人や保護者の気持ちに寄り添い、要望や相談には適切に対応する。
 - ⑥ スクールカウンセラーの活用等、専門家による継続的な心のケアに取り組む。
- (3) いじめた児童への指導と保護者への助言
 - ① 毅然とした対応と粘り強い指導を通じて、行為に対する十分な反省を促す。
 - ② いじめられた児童を守る観点から、必要に応じて別教室等での学習を行わせる。
 - ③ いじめの背景を考え、行為に対する責任を明確にし、再発防止に努める。
 - ④ 複数教員で家庭訪問を行い、保護者に説明を尽くし、理解と協力を求める。
- (4) 他の児童への指導
 - ① 新たないじめを防止するための指導の徹底を図る。
 - ② 傍観者や取り巻きもいじめを助長していることを理解させ、「いじめは人間として絶対に許されない」との意識を徹底させる。
 - ③ 児童自身の主体的な参画によるいじめの問題への取組促進などにより、いじめを許さない学校づくりを進める。
- (5) 教育委員会等への報告と連携
 - ① いじめを認知した場合は、学校長が速やかに市町村教育委員会に報告し、適切な連携を図るとともに、いじめられた児童を守る観点から、必要に応じて出席停止措置の適用を要請する。
 - ② 事案によっては、県教育委員会と連携し、阿波っ子スクールサポートチームや学校問題解決支援チーム、スクールカウンセラーの派遣を要請し、外部専門家の力を借りて対応する。
- (6) 関係機関への相談・通報
 - ① 恐喝、暴行、傷害等の犯罪行為として取り扱われるべきと認められる事案は、ためらうことなく早期に警察に相談し、警察と連携した対応を取る。
 - ② 生命又は身体の安全が脅かされるような場合には、直ちに警察に通報する。
 - ③ ネット上のいじめが行われた場合、いじめに係る情報の削除依頼や発信者情報の開示請求について、必要に応じて警察や法務局に協力を求める。

7 校内研修（年間計画に記載）

教職員の共通認識を図るため、いじめを始めとする生徒指導上の諸問題に関する校内研修を行う。

8 重大事態への対応マニュアル

- (1) 重大事態の基準
 - ① いじめにより、児童の生命、心身、財産に重大な被害が生じた時
 - ・自殺を企図した場合
 - ・身体に重大な障害を負った場合
 - ・金品に重大な被害を被った場合
 - ・精神性の疾患を発症した場合
 - ② いじめにより、児童が30日以上欠席を余儀なくされた場合
 - ③ 児童や保護者から同様の内容での訴えがあった場合は、重大事態とする。

(2) 重大事態の報告

重大事態が発生した場合には、速やかに三好市教育委員会に報告をする。

(3) 重大事態への対応

※ 重大事態の発生については、特に詳細な記録を残す。

① 連絡体制

発見者→担任→生徒指導→教頭→校長→教育委員会

② 「いじめの防止等の対策のための組織」の招集

- ・ 事案についての概要の把握と今後の計画を立てる。
- ・ 「いじめの防止等の対策のための組織」を立ち上げ、実態把握を行う。専門的な知識や経験を有する第三者に参加を図り、公平性を高めるためにスクールカウンセラーの参加を依頼する。さらに、状況に応じて、警察関係者の参加も依頼する。

③ 事実関係を明確にするための調査

- ・ 調査にあたっては、いじめを受けた児童及び保護者に調査の目的や内容、結果の公表の仕方について、十分に理解を得る。

ア いじめられた児童からの聞き取りが可能な場合

- ・ 当該児童及び関係職員、関係児童から聞き取り、または、質問紙調査を行う。
- ・ 当該児童の学校復帰が阻害されることの無いように、当該児童や情報を提供してくれた児童の安全を最優先にする。

イ いじめられた児童からの聞き取りが不可能な場合

- ・ 保護者の要望や意見を十分に聴く。
- ・ 関係職員、関係児童から聞き取り、または、質問紙調査を行う。

ウ 調査結果の情報提供

- ・ 調査結果については、いじめられた児童及び保護者に結果の提供を行う。
- ・ 調査結果については、三好市教育委員会に結果の報告を行う。

④ いじめた児童への指導

- ・ いじめた児童への指導については、「学校いじめ防止プログラム」の措置に準ずる。
- ・ 学校教育法第35条に示された出席停止の措置及び傷害事件での扱いも視野に入れて、警察との連携をとる。
- ・ 報道や事実に関する話題の拡散により、いじめた児童の人権が侵害されることも考え、関係機関や保護者との連携を密にする。
- ・ いじめられた児童との人間関係の再構築、周りの児童との人間関係の再構築、本人の学校生活での目標設定等、いじめた児童の学校生活の充実及び自己実現に向けて、継続的に指導をしていく。

⑤ いじめられた児童への指導

- ・ いじめられた児童への指導については、「学校いじめ防止プログラム」の措置に準ずる。
- ・ いじめられた児童の安全と学校生活の安定を最優先に考え、学習や生活の場所、スクールカウンセラー等の相談体制、学校全体での見守り体制、登下校での見守り体制、保護者との連絡体制、関係機関との連携等、当該児童の支援体制をとる。
- ・ まわりの児童による支援体制や人間関係づくりの支援等、当該児童が不安なく学校生活を送ることができる環境を整える。

9 年間計画（学校いじめ防止プログラム）

※ 下記に記載はしていないが、年間を通じて異学年班「なかよし班」で行事や集会、学習など多岐にわたる活動をしている。

	「いじめ・不登校の防止等の対策のための組織」・校内研修等	1年	2年	3年
4月	学校基本方針の説明、指導體制や指導計画の公表・周知 校内研修	あいさつ運動 PTA総会 家庭訪問 避難訓練 参観授業	あいさつ運動 PTA総会 家庭訪問 避難訓練 参観授業	あいさつ運動 PTA総会 家庭訪問 避難訓練 参観授業
5月	問題行動の共通理解 保護者向けチェックリスト配付	1年生を迎える会 校外学習 参観授業・愛校作業 清掃奉仕活動	1年生を迎える会 校外学習 参観授業・愛校作業 清掃奉仕活動	1年生を迎える会 校外学習 参観授業・愛校作業 清掃奉仕活動
6月	アンケート調査 アンケート調査分析	水泳学習 予防教育 地域交流学習 QUアンケート	水泳学習 予防教育 地域交流学習 QUアンケート	水泳学習 予防教育 地域交流学習 QUアンケート
7月	校内研修	水泳学習 校外補導 個人懇談 親子自然体験活動	水泳学習 校外補導 個人懇談 親子自然体験活動	水泳学習 校外補導 個人懇談 親子自然体験活動
8月	1学期取組点検評価・改善 取組の成果等の情報発信と保護者啓発	校外補導 愛校作業 ふるさと学習 (神代踊り)	校外補導 愛校作業 ふるさと学習 (神代踊り)	校外補導 愛校作業 ふるさと学習 (神代踊り)
9月	保護者向けチェックリスト配付 校内研修	避難訓練 (こども園との開催) 運動会	避難訓練 (こども園との開催) 運動会	避難訓練 (こども園との開催) 運動会
10月	校内研修	人権学習 (いちうっこ仲良し委員会) 地域交流学習 校外学習(遠足)	人権学習 (いちうっこ仲良し委員会) 地域交流学習 校外学習(遠足)	人権学習 (いちうっこ仲良し委員会) 地域交流学習 校外学習(遠足)
11月	校内研修 アンケート調査 アンケート調査分析	いちうっこフェスティバル QUアンケート	いちうっこフェスティバル QUアンケート	いちうっこフェスティバル QUアンケート
12月	2学期取組点検評価・改善	参観授業(人権教育) 人権講演会 ふれ合いマラソン (2小合同開催)	参観授業(人権教育) 人権講演会 ふれ合いマラソン (2小合同開催)	参観授業(人権教育) 人権講演会 ふれ合いマラソン (2小合同開催)
1月	保護者向けチェックリスト配付 校内研修	新年の決意発表 避難訓練(不審者対応)	新年の決意発表 避難訓練(不審者対応)	新年の決意発表 避難訓練(不審者対応)
2月	校内研修	個人懇談 新入生体験入学 校外学習(スキー) (いちうっこ仲良し委員会)	個人懇談 新入生体験入学 校外学習(スキー) (いちうっこ仲良し委員会)	個人懇談 校外学習(スキー) (いちうっこ仲良し委員会)
3月	1年間の取組点検評価・改善と次年度の計画	卒業式 6年生を送る会	卒業式 6年生を送る会	卒業式 6年生を送る会 愛校作業

	「いじめ・不登校の防止等の対策のための組織」・校内研修等	4年	5年	6年
	学校基本方針の説明、	あいさつ運動	あいさつ運動	あいさつ運動

4月	指導体制や指導計画の公表・周知 校内研修	PTA総会 家庭訪問 避難訓練 参観授業	PTA総会 家庭訪問 避難訓練 参観授業	PTA総会 家庭訪問 避難訓練 参観授業
5月	問題行動の共通理解 保護者向けチェックリスト配付アンケート調査	1年生を迎える会 校外学習 参観授業・愛校作業 清掃奉仕活動	1年生を迎える会 校外学習 参観授業・愛校作業 清掃奉仕活動	1年生を迎える会 校外学習 参観授業・愛校作業 清掃奉仕活動
6月	アンケート調査 アンケート調査分析	水泳学習 予防教育 地域交流学习 QUアンケート	水泳学習 予防教育 宿泊学習 地域交流学习 QUアンケート	水泳学習 予防教育 宿泊学習 地域交流学习 QUアンケート
7月	校内研修	水泳学習 校外補導 個人懇談 親子自然体験活動	水泳学習 校外補導 個人懇談 親子自然体験活動	水泳学習 校外補導 個人懇談 親子自然体験活動
8月	1学期取組点検評価・改善、取組の成果等の情報発信と保護者啓発	校外補導 愛校作業 ふるさと学習 (神代踊り)	校外補導 愛校作業 ふるさと学習 (神代踊り)	校外補導 愛校作業 ふるさと学習 (神代踊り)
9月	保護者向けチェックリスト配付 校内研修	避難訓練 (こども園との開催) 運動会	避難訓練 (こども園との開催) 運動会	避難訓練 (こども園との開催) 運動会
10月	校内研修	人権学習 (いちうっこ仲よし委員会) 地域交流学习 校外学習(遠足)	人権学習 (いちうっこ仲よし委員会) 地域交流学习 校外学習(遠足)	人権学習 (いちうっこ仲よし委員会) 地域交流学习 校外学習(遠足)
11月	校内研修 アンケート調査 アンケート調査分析	いちうっこフェスティバル QUアンケート	いちうっこフェスティバル QUアンケート	いちうっこフェスティバル QUアンケート
12月	2学期取組点検評価・改善	参観授業(人権教育) 人権講演会 ふれ合いマラソン (2小合同開催)	参観授業(人権教育) 人権講演会 ふれ合いマラソン (2小合同開催)	参観授業(人権教育) 人権講演会 ふれ合いマラソン (2小合同開催)
1月	保護者向けチェックリスト配付 校内研修	新年の決意発表 避難訓練(不審者対応)	新年の決意発表 避難訓練(不審者対応)	新年の決意発表 避難訓練(不審者対応)
2月	校内研修	個人懇談 校外学習(スキー) (いちうっこ仲よし委員会)	個人懇談 校外学習(スキー) (いちうっこ仲よし委員会)	個人懇談 校外学習(スキー) (いちうっこ仲よし委員会)
3月	1年間の取組点検評価・改善と次年度の計画	卒業式 6年生を送る会	卒業式 6年生を送る会	卒業式 6年生を送る会

10 取組の評価

- (1) いじめ問題の取組等について、学校評価の項目に加え、自校の取組を評価する。
- (2) PDCAサイクルの考え方に従い、年間計画で決めた期間の終わりには、「取組評価アンケート」等を実施し、その結果を踏まえてその期間の取組が適切に行われたか否かを検証する。
- (3) 期待するような指標等の改善が見られなかったような場合には、その原因を分析し、次の期間の取組内容や取組方法の見直しを行う。